

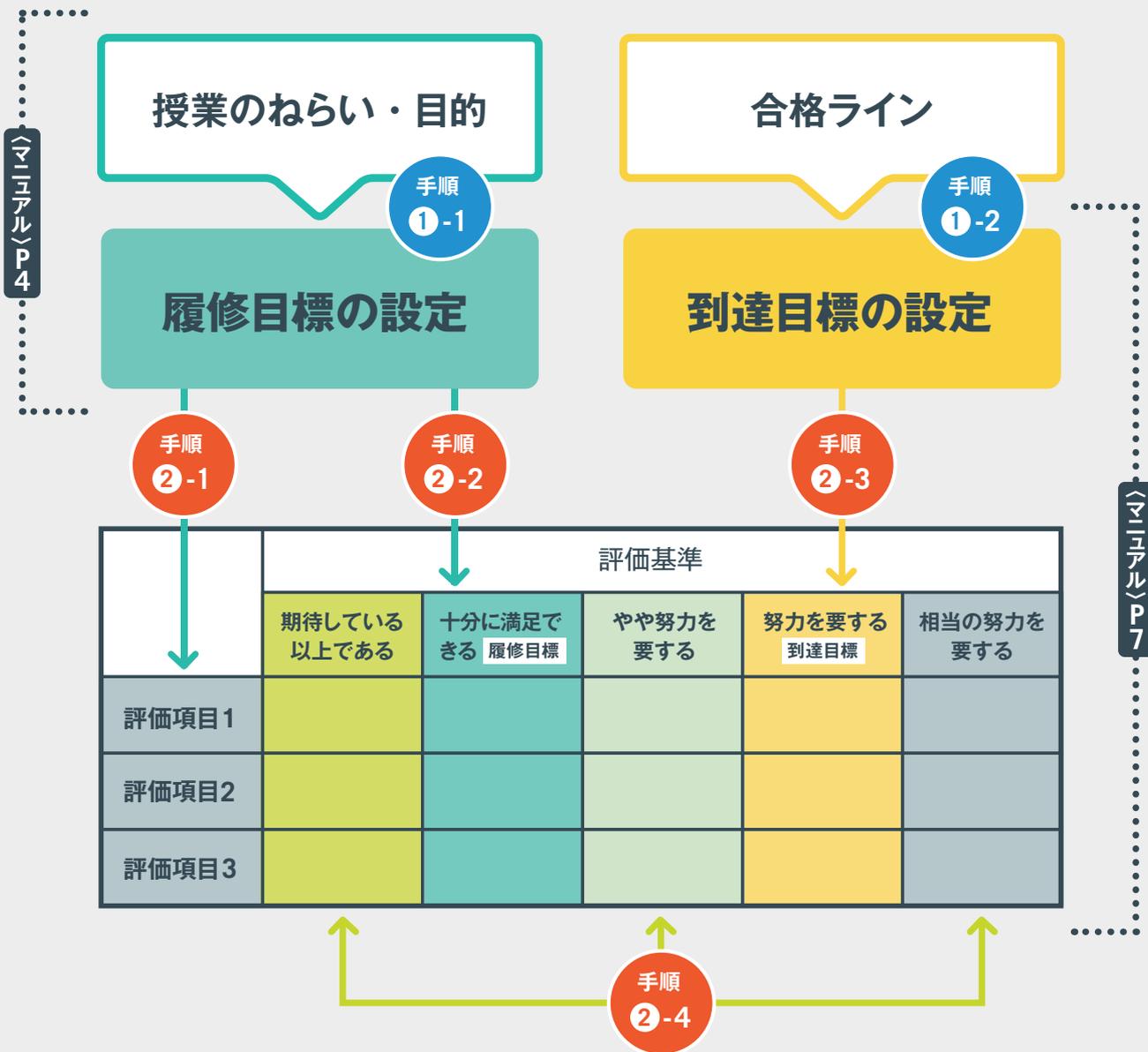


教員向け

気軽にできる! まずはトライ!

ルーブリック作成マニュアル

▼ 授業別ルーブリックの作成の流れ



平成27年12月

横浜国立大学 大学教育総合センター FD推進部

授業設計と成績評価ガイドライン、授業別ルーブリック専用問い合わせ窓口:

yec-guideline@ml.ynu.ac.jp

YNU

横浜国立大学

はじめに

平成27年度に横浜国立大学では「授業設計と成績評価ガイドライン」を策定しました。このガイドラインでは2つの目標を掲げています。

目標1 各教員が持つ成績評価のグレードの認識を統一する

目標2 教員と学生間の成績評価に関する認識を統一する

目標1 を達成するために「**成績評価の基準表**」を導入し、シラバスに明示することにしました。

目標2 を達成するために「**授業別ルーブリック(※)**」を導入しました。

各教員がシラバスに各授業の授業別ルーブリックを入力し、学生がシラバスの授業別ルーブリックを閲覧することで、教員と学生が各授業における成績評価の基準を共有することを目的としています。

授業別ルーブリックは、気軽に授業の形態に合わせて作成することができます。本マニュアルを参考にして、まずは作成してみましょう!

(※) 授業別ルーブリックとは

各授業において学生が何を学修するのかを示す「**評価項目**」と学生が学修到達しているレベルを示す具体的な「**評価基準**」を示す表形式の評価指標です。到達レベルを数段階に分けて特徴を記述するので到達レベルが明確化されます。

CONTENTS

本マニュアルは、授業別ルーブリックの作成方法ならびに
活用方法についてまとめたものです。

授業別ルーブリックの作成手順だけを知りたい方は、
〈マニュアル〉の部分だけをご覧ください。

1	履修目標と到達目標	3
	〈マニュアル〉 履修目標と到達目標の設定 	4
2	授業別ルーブリック	7
	〈マニュアル〉 授業別ルーブリックの作成(I) 	7
	〈マニュアル〉 授業別ルーブリックの作成(II) 	11
3	授業別ルーブリックの活用	14
	補章1 授業設計と成績評価ガイドライン	19
	補章2 コモン・ルーブリック	22

1 履修目標と到達目標

1-1. 成績評価の基準表

横浜国立大学では、5段階の成績評価グレード(秀、優、良、可、不可)を用いています。それぞれのグレードは点数で表現されていますが、各授業における履修目標と到達目標との関係をガイドラインでは「成績評価の基準表」で表しています。

成績評価の基準表

秀	優	良	可	不可
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成できていない

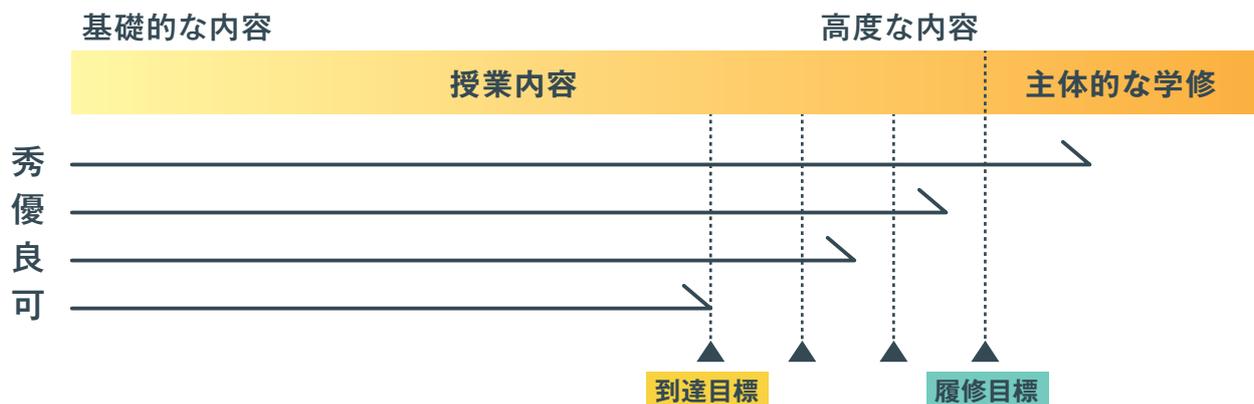
履修目標 : 授業で扱う内容(授業のねらい)を示す目標

到達目標 : 授業において最低限学生が身につける内容を示す目標

学生には自主的な学修を促すことが大切です。従って、学生へは履修目標と到達目標の説明に次の表現を用いています。この表は「成績評価の基準表」と共にシラバスに明示します。

履修目標と到達目標 (学生向け)

履修目標	授業で扱う内容(授業のねらい)を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
到達目標	授業を履修した人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。



1 -2. 履修目標と到達目標の設定方法

シラバスには、履修目標と到達目標を別々に記入する欄があります。各授業の履修目標と到達目標を設定します。

〈マニュアル〉履修目標と到達目標の設定

手順
①-1

授業のねらい・目的から履修目標を設定します。

シラバスの最初に「授業の目的」欄があります。ここでは授業全体で扱う内容のねらいや目的が記述されます。これを **履修目標** とします。

手順
①-2

合格ラインから到達目標を設定します。

授業を履修した学生が最低限身に付けている内容を **到達目標** とします。単位を取得した学生ができる内容を記述します。

手順
①-1

授業のねらい・目的から履修目標を設定する



手順
①-2

合格ラインから到達目標を設定する

◆到達目標の設定

ディプロマ・ポリシーと各授業との関係を示したカリキュラムマップには、到達目標が使われています。到達目標は授業を履修した学生が満たす目標として、「～できる。」という表現を用いて設定されました。授業によっては、学科やコースなどのカリキュラム全体から到達目標が設定されている場合があります。既に設定されている到達目標があれば、その到達目標を授業別ルーブリックの作成に使用することを勧めます。

◆JABEEとの関係

理工学部で技術者教育認定機構（JABEE）が行っている教育プログラムの認定を受けている学科等においては、各授業における履修内容が定められている場合があります。この履修内容とは、履修者全員が修得している内容を指していますから、到達目標に相当します。

作成例

「授業の目的」に記載された内容から **履修目標** と **到達目標** を設定する例を紹介します。履修目標と到達目標は以下の点に注意して記述することが望まれています。

1. 主語は学生とし、習得する資質を「～できる。」という表現で表わす。
2. 学生が習得したことを評価できる一資質を一文で表現する。
3. 資質は習得したことが外部から判断できる行為動詞で表現する。
4. 記述の際に専門用語を多用しない。

このほかにも、履修目標、到達目標を作成する際には、

- ・授業の目的と対応させる。
- ・「理解する」のような概念的な表現ではなく、観察可能な動詞で表現する。
- ・1つの文章に1つの目標を書く。

といった点が留意点として挙げられます。

目標に使う動詞例

①知識の領域					
説明する	述べる	予測する	批判する	評価する	例を挙げる
比較する	解釈する	結論する	使用する	類別する	関係づける
②態度・習慣の領域					
参加する	行う	見せる	示す	始める	
配慮する	表現する	強調する	寄与する	反応する	
③技能の領域					
工夫する	準備する	行う	測定する	動かす	
実施する	調べる	操作する	感ずる	模倣する	

参考：佐藤浩章編『大学教員のための授業設計とデザイン』、玉川大学出版部、2010年

1 履修目標と到達目標

下記の例では、目的にある「**ワープロによる報告書作成に必要な技術を習得し**」に対して履修目標と到達目標を設定しています。履修目標では授業で扱う内容を全部含めることを「**高度な技術を活用すること**」と表現し、到達目標では合格ラインを「**レポートをワープロで作成すること**」と表現しています。履修学生が活用できるワープロの技術内容が増えれば、到達目標から履修目標に進む関係があることが分かるように記述しています。

授業の目的 (必須) ▶ 授業で何を学ぶのか、そのねらい・目的をわかりやすく示して下さい。

本演習では、ワープロによる報告書作成に必要な技術を習得し、他人に分かりやすく見やすいレポートをワープロ(Word)で作成することを、実習を通して身に付けることを目的とする。

手順
①-1

単文の目標で表現する

履修目標 (必須) ▶ 履修目標は、授業で扱う内容(授業のねらい)を示す目標です。ほぼ達成すれば、成績は「優」に相当します。

- ・レポート作成に必要なワープロの高度な技術を活用することができる。
- ・レポートを通して自分の考えを論理立てて他人へ説明することができる。
- ・他人が分かりやすかつ見やすいレポートを作成することができる。

手順
①-2

各項目の合格ラインを示す

到達目標 (必須) ▶ 到達目標は、授業を履修する学生が最低限身につける内容を示す目標です。ほぼ達成すれば、成績は「可」に相当します。

- ・レポートをワープロで作成することができる。
- ・レポートを通して自分の考えを他人に伝えることができる。
- ・他人に分かりやすいレポートを考えて、示すことができる。

2 授業別ルーブリック

2-1. 履修目標と到達目標から作成する手順

授業に定められた履修目標と到達目標から授業別ルーブリックを作成する手順を示します。授業固有の評価項目が多い場合や後述のコモン・ルーブリックに該当するものが無い場合は、この手順により授業別ルーブリックを作成することになります。

〈マニュアル〉 授業別ルーブリックの作成 (I)

手順 2-1 履修目標 から評価項目を抽出します。

2-1

シラバスの「履修目標」には複数の目標が書かれていることが多いです。それを「評価項目」として抽出し、ルーブリックの最左列の評価項目欄に記述します。評価項目の数は任意に定めることができますので、一項目だけでも構いません。一つの評価項目に対して、一つの欄を使用して下さい。

手順 2-2 履修目標 に相当する内容を「十分に満足できる(履修目標)」欄に記載します。

2-2

抽出した評価項目に対して、履修目標の内容を短文で記載します。

手順 2-3 到達目標 に相当する内容を「努力を要する(到達目標)」欄に記載します。

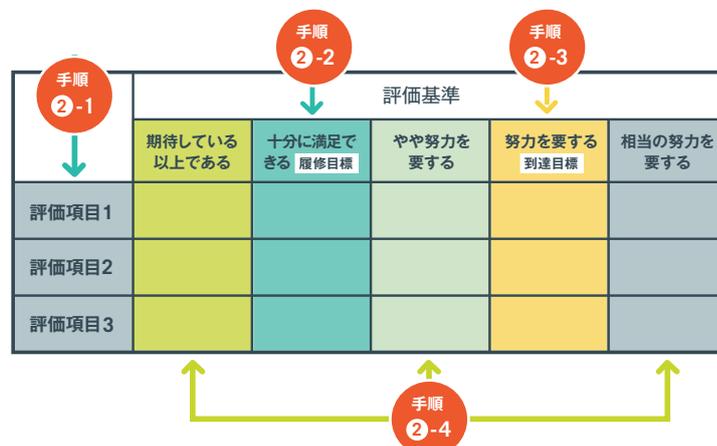
2-3

到達目標の記載内容から評価項目に該当する内容を選んで記載します。到達目標の記載内容以外にも、新たに評価項目を追加して構いません。

手順 2-4 すでに記載された評価基準を参考にして、空欄を埋めます。

2-4

「期待している以上である」の欄には学生の主体的な学びに関する基準を記載します。該当する基準が無ければ空欄でも構いません。



2 授業別ルーブリック

作成例

既に設定された履修目標と到達目標から授業別ルーブリックを作成する手順を示します。
履修目標と到達目標は、p.6で示した例を用います。

履修目標

- ・レポート作成に必要なワープロの高度な技術を活用することができる
- ・レポートを通して自分の考えを論理立てて他人へ説明することができる
- ・他人が分かりやすかつ見やすいレポートを作成することができる

到達目標

- ・レポートをワープロで作成することができる
- ・レポートを通して自分の考えを他人に伝えることができる
- ・他人に分かりやすいレポートを考えて、示すことができる

授業別ルーブリックは「成績評価の基準 ルーブリック」欄にある空白の表に直接打ちこみます。下図はシラバスの入力画面です。

成績評価の基準 ルーブリック

【成績評価の基準表】

秀	優	良	可	不可
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない

履修目標：授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標
到達目標：授業において最低限学生が身につける内容を示す目標

ルーブリック例

【授業別ルーブリック】

評価項目	評価基準					
	期待している以上である	十分に満足できる(履修目標)	やや努力を要する	努力を要する(到達目標)	相当の努力を要する	
						上へ クリア 下へ
						上へ クリア 下へ
						上へ クリア 下へ

この表に直接打ち込みます

2 授業別ルーブリック

手順

2-1

履修目標 から評価項目を抽出します。

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足で きる 履修目標	やや努力を 要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を 要する
ワープロ技術の 利用能力					
自分の考えの 伝え方					
文書の 分かりやすさ・ 見やすさ					

注) 全て空欄の行は、学生に表示する時は削除されます。

手順

2-2

履修目標 に相当する内容を

「十分に満足できる(履修目標)」欄に記載します。

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足で きる 履修目標	やや努力を 要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を 要する
ワープロ技術の 利用能力		ワープロの高度 な技術を活用す ることができる			
自分の考えの 伝え方		自分の考えを論 理立てて他人へ 説明することが できる			
文書の 分かりやすさ・ 見やすさ		分かりやすくかつ 見やすいレポート を作成することが できる			

2 授業別ルーブリック

手順

2-3

到達目標 に相当する内容を

「**努力を要する (到達目標)**」欄に記載します。

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足できる 履修目標	やや努力を 要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を 要する
ワープロ技術の 利用能力		ワープロの高度な技術を活用することができる		レポートをワープロで作成することができる	
自分の考えの 伝え方		自分の考えを論理立てて他人へ説明することができる		レポートを通して自分の考えを他人に伝えることができる	
文書の 分かりやすさ・ 見やすさ		分かりやすくかつ見やすいレポートを作成することができる		他人に分かりやすいレポートを考えて、示すことができる	

手順

2-4

すでに記載された評価基準を参考にして、空欄を埋めます。

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足できる 履修目標	やや努力を 要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を 要する
ワープロ技術の 利用能力	授業で扱わないワープロ技術を活用することができる	ワープロの高度な技術を活用することができる	ワープロの技術をある程度活用することができる	レポートをワープロで作成することができる	ワープロでは不完全なレポートしか作成できない
自分の考えの 伝え方	自分の考えに反論する人も説得することができる	自分の考えを論理立てて他人へ説明することができる	論理にあいまいさがあるが、自分の考えを伝えることができる	レポートを通して自分の考えを他人に伝えることができる	レポートでは自分の考えが他人へよく伝わらない
文書の 分かりやすさ・ 見やすさ		分かりやすくかつ見やすいレポートを作成することができる	他人に分かりやすいレポートを作成することができる	他人に分かりやすいレポートを考えて、示すことができる	分かりやすいレポートを理解できていない

2 -2. コモン・ルーブリックから作成する手順

シラバスの入力画面からは典型的な授業形態に合わせて、コモン・ルーブリックを閲覧できるように用意してあります。その中から授業に適したルーブリックをコピーして、修正することで授業別ルーブリックを作成することができます。

〈マニュアル〉 授業別ルーブリックの作成 (II)

手順
3-1

授業内容が最も近いコモン・ルーブリックを選びます。

シラバス入力画面には、授業、演習、実験など授業形態に合わせた授業別ルーブリックを別画面で開くことができます。

手順
3-2

該当するコモン・ルーブリックをコピーします。

ルーブリックの一部をコピーする機能はありませんので、該当するルーブリック全体をコピーします。

手順
3-3

授業内容に合わせて、不要な評価項目の行を削除、あるいは、必要な評価項目の行を追加します。

手順
3-4

授業の履修目標および到達目標に合わせて、評価基準の文を修正します。

手順
3-1

コモン・ルーブリックを選択する



手順
3-2

コモン・ルーブリックをコピーする



手順
3-3

評価項目の追加・削除を行う



手順
3-4

評価基準の文を修正する

2 授業別ルーブリック

作成例

シラバス入力画面からコモン・ルーブリックを表示する操作を示します。

- ① 「成績評価の基準表」の下にある「ルーブリック例」をクリックします。

成績評価の基準 ールーブリックー

【成績評価の基準表】

秀	優	良	可	不可
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない

履修目標：授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標
到達目標：授業において最低限学生が身につける内容を示す目標

ルーブリック例 **ここをクリックします**

【授業別ルーブリック】

評価項目	評価基準					
	期待している以上である	十分に満足できる(履修目標)	やや努力を要する	努力を要する(到達目標)	相当の努力を要する	
						上へ クリア 下へ
						上へ クリア 下へ
						上へ クリア 下へ

- ② 別画面にコモン・ルーブリックが表示されます。第一行目のプルダウンメニューで異なる授業形態のルーブリックを表示することができます。

ルーブリック例: 授業形態: 講義 **プルダウンメニューで適したルーブリックを選びます**

評価項目	期待している以上である	十分に満足できる(履修目標)	やや努力を要する	努力を要する(到達目標)	相当の努力を要する
理解度理解度	授業内容を越えた自主的な学習が認められる。	授業内容をほぼ100%理解している。	到達目標は理解しているが、授業内容に不足がある。	到達目標に達していることが認められる。	到達目標に達していない。
課題解法能力 課題解法能力	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
調査能力(予習) 調査能力(予習)	自ら進んで予習範囲を越えて調べている。	予習範囲を十分に理解し、他人に説明できる。	指示した予習範囲の理解にあいまいな点がある。	指示された範囲は予習するが、理解が不十分である。	指示された範囲は予習が不十分である。

閉じる

2 授業別ルーブリック

ご参考 授業別ルーブリックの例

テーマを選択し、学生自身が調査した内容から論文を書くことを目的とした授業の例を示します。評価項目欄には成績評価に関する重みを%で記載した例です。重みは省略することもできます。

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる 履修目標	やや努力を要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を要する
テーマの選択 (10%) 重みは省略してもよい		実社会の必要性を考えたテーマを選ぶことができる	自分の考えからテーマを選ぶことができる	提示された事例の範囲からテーマを選ぶことができる	テーマの選定ができていない
調査の内容 (25%)	新たな手法を用いて結論に至る調査を実施することができる	自発的な論理展開に必要な調査を実施することができる	目標は学生が主語で「~できる。」という表現がよい	提示された範囲調査は正しく実行できる	調査が不完全である
論文の記述内容 (60%)	他人の気がつかない観点で自分の考えを記述することができる	自らの考えを正確に伝えることができる	調べた情報から他人が理解するに十分な記述ができる	調べた情報を正しく人へ伝えることができる	伝えたい内容が他人に伝わらない
論文の書式 (5%) 主体的学びで得られる内容を示します		全般に規定を満たしている		一部を除き規定を満たしている	多くの点で規定を満たしていない
			該当する基準がない場合は空欄とする		

評価項目を1項目とすることもできます。資格試験のように与えられた問題を解く能力を身につけることを目的とした授業の例です。

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる 履修目標	やや努力を要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を要する
問題を解く力 評価項目が1項目のみ	解法が分からない他人にアドバイスができる	独自の力でほとんどの問題を解くことができる	高度な問題を除き、独自の力で解くことができる	参考書を参照すれば、ほとんどの問題を解くことができる	他人のアドバイスがないと問題を解くことができない

3 授業別ルーブリックの活用

作成した授業別ルーブリックは、手を加えたり、新たな表を追加したりすることで様々な活用が可能となります。活用例を紹介します。

授業別ルーブリックの様々な活用例

	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足で きる(履修目標)	やや努力を 要する	努力を要する (到達目標)	相当の努力を 要する
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					

授業別ルーブリック

学生への指導に 活用

	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足で きる(履修目標)	やや努力を 要する	努力を要する (到達目標)	相当の努力を 要する
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					

レポート課題用や
試験問題用に改修

レポート採点に 活用

	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足で きる(履修目標)	やや努力を 要する	努力を要する (到達目標)	相当の努力を 要する
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					

授業別ルーブリック

+

評価項目	S	A	B	C	D
取り上げた項目			✓		
説明内容の記述	✓				
記述の書式		✓			

採点表

授業改善に 活用

	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足で きる(履修目標)	やや努力を 要する	努力を要する (到達目標)	相当の努力を 要する
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					

授業別ルーブリック

+

	S	A	B	C	D
11	30	19	0	0	
5	13	24	12	6	
0	8	19	24	9	

集計表

3-1. 学生への指導に活用

1) レポートへの応用

レポート課題の評価項目とその評価基準を明示することにより、課題の意図を理解させることができます。どのような視点でレポートを構成すればよいかを評価項目で示すことができ、「期待している以上である」欄には質の高いレポートを完成させるためには何をすればよいかを伝えることができます。

例 授業中で紹介した将来構想について、自分で調べて考えた内容をレポートにする課題に対して、評価基準を示したルーブリックを示します。

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる <small>履修目標</small>	やや努力を要する	努力を要する <small>到達目標</small>	相当の努力を要する
① 社会へ与える効果・影響	地球全体を意識した内容が書かれている	第三者の影響にも言及されている	当事者の効果と影響が書かれている	当事者の効果のみが書かれている	十分な理由が書かれていない
② 現在までの提案	複数の提案から自分の考えが書かれている	提案内容と実現しなかった理由が書かれている	提案内容の説明のみである	提案に対する内容の説明が不十分である	文献のコピーと思われる文章である
(中略)					
⑥ 文体		論理が通った文章で読みやすい			読みにくい、又は、文章でない

3 授業別ルーブリックの活用

2) 試験問題への応用

評価項目に挙げた複数の項目に対して、問題の配点比率を明記すると、各目標の重要性を伝えることができます。下記の例のように、評価項目欄に配点比率を%で示します。それぞれの項目の履修目標と到達目標を設定することで勉強の方向性を指示することができます。

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足で きる 履修目標	やや努力を 要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を 要する
評価項目 A (50%)					
評価項目 B (30%)					
評価項目 C (20%)					

配点比率を
明記する

3 -2. レポート採点に活用

レポートなどの評価には、ルーブリックの該当欄にチェックすることで点数化することが可能となります。さらに、評価項目を点数化し表計算ソフトで集計すれば、効率よく採点が可能となります。

例 授業で取り上げた内容をまとめるレポート課題の採点例です。1回の講義に対して、1レポートを書く課題としています。学生にはレポートと共に採点表が返却されます。

採点基準

各回に共通した基準をレポートの出題時に学生に提示します

評価項目	評価基準				
	S: 期待している以上である	A: 十分に満足できる <small>履修目標</small>	B: やや努力を要する	C: 努力を要する <small>到達目標</small>	D: 相当の努力を要する
取り上げた項目	自分で調べた重要な項目が追加されている	重要な項目のほぼ全部が書かれている	重要な項目の7割程度が書かれている	重要な項目の半分が書かれている	重要な項目の半分も書かれていない
説明内容の記述	自分で調べた説明が自分の文章で書かれている	正確	明が無い項目ある	説明に間違った点がある	
記述の書式		課題の条件を満たしている			条件を満たしていない

学生の主体的な学修が確認できる内容の評価します

書式は「合」「否」の判定しかないなので、空欄があります

採点表

1回の授業の内容に対して1表を対応させます

第1回講義内容

評価項目	S	A	B	C	D
取り上げた項目			✓		
説明内容の記述	✓				
記述の書式		✓			

主な項目
静安定の定義、翼と静安定の関係、舵と発生するモーメント

第2回講義内容

評価項目	S	A	B	C	D
取り上げた項目		✓			
説明内容の記述			✓		
記述の書式		✓			

レポート返却時に該当欄へ「✓」を記入するだけで評価内容を学生に伝えることができます

主な項目
衛星の運動方程式の特徴、軌道の特徴、軌道の利用

3 -3. 授業改善に活用

1) 学生の到達度の把握

配点の分布を集計することで各評価項目に対する学生の到達度が確認できます。例えば、下表のように学生の評価項目ごとに、成績を集計したとします。集計表を見れば、学生の到達度の分布を把握することができます。

学生の素点

評価項目	学生1	学生2	学生3	…
評価項目1	A	B	S	…
評価項目2	B	C	A	…
評価項目3	C	D	B	…

学生の素点

S	A	B	C	D
11	30	19	0	0
5	13	24	12	6
0	8	19	24	9

到達度は分布の中心と分布の広さで判断します。例えば、上記の集計表の場合、以下の分布となっています。

評価項目1 ……分布の中心が高く、分布幅が狭い

評価項目2 ……分布の中心が中で、分布幅が広い

評価項目3 ……分布の中心が低く、分布幅が狭い

2) 授業改善への利用

学生の到達度が高ければより高度な授業内容に改善し、到達度が低ければ授業内容を変えずに補習課題などで到達度を上げることを試みます。例えば、上記の結果が得られたならば、次のような改善が考えられます。

評価項目1 : 多くの学生は十分に授業内容を理解できていることが示されています。従って、次年度からはより高度な内容の授業を行うことができます。

評価項目2 : 分布が広いので、下位の学生のために新たな課題を与えて、自主的な学修を促すことが必要です。授業内容は現状のままでよいですが、下位の学生の到達度に上昇が見られれば、より高度な内容に改善することができます。

評価項目3 : 分布の中心が低いので、授業改善が必要です。教員の意図したことが学生にうまく伝わっていません。授業内容の高さを保ったまま、分布の中心を引き上げる工夫が必要です。学生が興味を持つような内容を追加するなど、学生の自発性を上げる工夫が効果的です。

補章1 授業設計と成績評価ガイドライン

本学における教育の質の保証と向上を目指して、このガイドラインは設定されました。ルーブリックを用いて、教員および学生の成績評価に対する認識を統一し、各授業における目標と成績評価の関係を明示します。ガイドラインに従った授業設計と成績評価を行うことで、学生の主体的な学びが促進され、優秀な学生が成長することを期待しています。

◆ 授業改善のPDCAサイクル

I. 授業設計の時に授業の目標ならびに授業時間外の学修内容を設定し、シラバスに記述して下さい。授業を実施し、設計時に定めた目標に従った成績評価を行って下さい。その結果として成績分布に偏りが出たら、次年度の授業に向けて改善を行って下さい。図1のPDCAサイクルを繰り返すことで質の高い授業へと改善して下さい。

◆ 成績評価の基準の統一

II. 授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標を「履修目標」とし、ほぼ達成していれば成績評価は「優」以上として下さい。授業において最低限学生が身につける内容を示す目標を「到達目標」とし、達成していれば成績評価は「可」以上として下さい。成績評価の基準表として表1を用います。学生向けに表2の各目標の説明文を公開します。

◆ 授業別ルーブリック

III. 授業別ルーブリックとは表3に示す表です。どのような観点で成績評価を行うかという「評価項目」とそれぞれの評価項目に対する到達度を表わす「評価基準」を表形式で示しています。授業別ルーブリックを学期前に明示して、授業別ルーブリックに従って成績評価を行って下さい。学生向けに表4の説明文を公開します。

◆ 教員間協議の励行

IV. 同一科目の複数クラスを複数教員でそれぞれ担当する科目や一つの科目を複数の教員で担当するオムニバス形式科目は、担当教員の協議により授業の目標と成績評価の基準を設定して下さい。

◆ 科目による柔軟性

V. 能力別編成クラスの科目や受講生が少人数の科目は、担当教員の判断により、当ガイドラインを柔軟に適用して下さい。

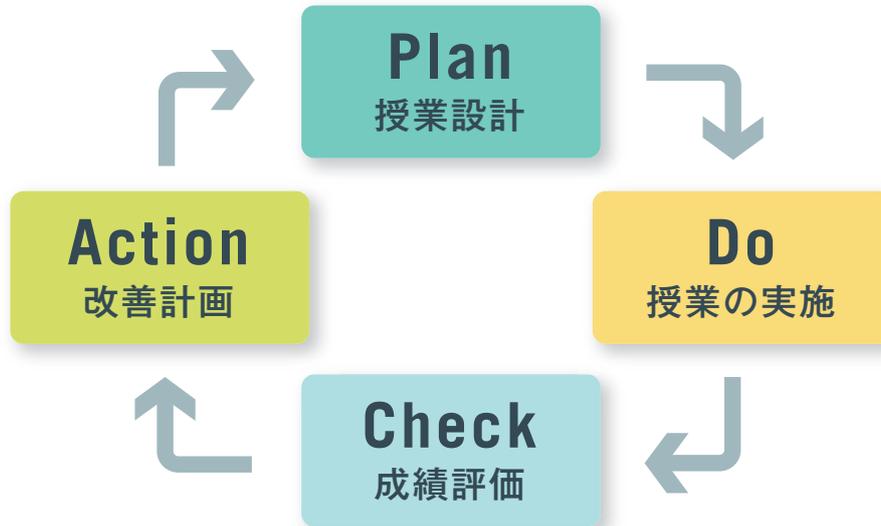


図1：授業改善のPDCAサイクル

表1：成績評価の基準表

秀	優	良	可	不可
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成できていない

履修目標：授業で扱う内容(授業のねらい)を示す目標

到達目標：授業において最低限学生が身につける内容を示す目標

表2：履修目標と到達目標(学生向け)

履修目標	授業で扱う内容(授業のねらい)を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
到達目標	授業を履修した人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

表3：授業別ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している 以上である	十分に満足で きる 履修目標	やや努力を 要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を 要する
評価項目 A		履修目標		到達目標	
評価項目 B					
評価項目 C					

表4：評価基準の説明（学生向け）

評価基準	内容
期待している 以上である	授業の範囲を越える内容までを自主的な学修で修得していることが認められます。
十分に満足 できる	履修目標の水準をほぼ修得しています。授業の内容をほぼ修得したことが認められます。
やや努力を 要する	履修目標と到達目標の中間に位置しており、努力することを勧めます。
努力を要する	到達目標の水準をほぼ修得していますが、まだ努力が必要です。
相当の努力を 要する	到達目標に達していません。授業のねらいの水準に達するには相当の学修が必要です。

補章2 コモン・ループリック

① 授業形態：講義（知識伝達型の授業）

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる 履修目標	やや努力を要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を要する
理解度	授業内容を越えた自主的な学修が認められる	授業内容をほぼ100%理解している	到達目標は理解しているが、授業内容に不足がある	到達目標に達していることが認められる	到達目標に達していない
課題解法能力	解法が分からない他人にアドバイスができる	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる	参考書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない
調査能力(予習)	自ら進んで予習範囲を越えて調べている	予習範囲を十分に理解し、他人に説明できる	指示した予習範囲の理解にあいまいな点がある	指示された範囲は予習するが、理解が不十分である	指示された範囲は予習が不十分である

② 授業形態：演習(理系)

(与えられた問題を解き、プレゼンやレポートで説明する授業)

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる 履修目標	やや努力を要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を要する
課題を解く力	解法が分からない他人にアドバイスができる	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる	参考書などを見れば、独自で課題を解くことができる	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる	ワープロでは不完全なレポートしか作成できない
解法を口頭で説明する力 (プレゼン内容)	聴衆を引きつける説明ができる	聴衆の理解を助ける説明ができる	板書内容を補足する説明ができる	板書内容を正しく説明することができる	板書内容を正しく説明できない
解法を文書で説明する力 (レポート内容)	他人を説得する内容が記述することができる	論理が通った説明文を記述することができる	不足する点があるが、説明文を書くことができる	必要な式は書くことができる	必要な式が欠落している内容である

③ 授業形態：実験（手順に従った実験を行い、現象の考察をレポートする授業）

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる 履修目標	やや努力を要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を要する
実験内容の理解（予習）	自ら進んで実験に関する内容を調べることができる	実験内容を十分に理解し、他人に説明できる	理解にあいまいな点があるが、予習ができる	実験内容の予習をすることができる	頻繁に実験内容の予習を怠る
実験中の行動	他人をリードする態度で実験を進めることができる	自発的に実験を進めることができる	手順書を見れば、内容を理解して実験を進めることができる	手順書に従って正しく実験を進めることができる	手順書に従った実験が進められない
実験レポートの記述	自ら調べた内容を含めることができる	実験から得た自らの考えを正確に伝えることができる	他人が実験内容を理解するに十分な記述ができる	実験で得たデータを正しく他人へ伝えることができる	データの整理や説明が不十分である

④ 授業形態：調査研究（個別テーマが与えられる卒業論文や卒業研究）

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる 履修目標	やや努力を要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を要する
テーマの選択	実社会の必要性を考えたテーマを選ぶことができる	調査計画も考えてテーマを選ぶことができる	自分の考えからテーマを選ぶことができる	指示された範囲内のテーマを選ぶことができる	指示された範囲内のテーマを選ぶことができない
調査の内容	新たな手法を用いて結論に至る調査を実施することができる	自発的な論理展開に必要な調査を実施することができる	論文の展開に必要な調査を全て行うことができる	指示された範囲の調査は正しく実行できる	指示された範囲の調査が不十分である
論文の記述内容	他人が気がつかない観点で自分の考えを記述することができる	自らの考えを正確に伝えることができる	調べた情報から他人が理解するに十分な記述ができる	調べた情報を正しく他人へ伝えることができる	調べた情報を他人へ伝えることが不十分である